

V05c

AKARI Catalogue Archive Server(AKARI-CAS)の開発—続報

山内千里(国立天文台) 吉野彰(宇宙航空研究開発機構)

「あかり」全天カタログのデータ公開サービスである「AKARI Catalogue Archive Server(AKARI-CAS)」は2010年3月末に宇宙研のDARTSにて公開され、公開から1年経過時点で累計20万件以上のアクセスがあった(検索のみカウント)。このポスターでは、アクセスに関する報告と公開後に新規に開発した機能の紹介を行なう。

AKARI-CASのような国産のデータアクセスサービスは、世界中の研究者の研究効率向上のために開発される事はもちろん、特に日本の研究者が有利に研究を進めて多数の科学的成果を生み出せる土台として、非常に重要な役割を担うと考えている。我々は、主に日本の天文学者の声を参考にしながら、より多くの研究テーマでAKARI-CASが活用できるように、日々研究・開発を進めてきた。

今回は、2010年3月の公開後に追加したいくつかの新機能を紹介する。その1つは「Match-up AKARI catalogues with Cached SIMBAD/NED catalogs」である。このサービスは、SIMBADとNEDに含まれる全カタログと「あかり」カタログとを瞬時にマッチアップし、その結果をカタログ名と天体タイプで検索できるものである。もう1つは、2MASSカタログ(4.7億天体)のサポートである。データベースの実装を工夫する事で、2MASSカタログの高速な検索と2MASSカタログ-他カタログ間でのクロスマッチが可能になった。RC3, IRASカタログもサポートし、「あかり」カタログを使った様々な研究に、より柔軟に対応できるようになった。

いよいよAKARI Data Archive Server(AKARI-DAS; 吉野氏のポスター参照)の開発も始まり、「あかり」カタログの作成に使われた高次データの検索機能も公開される予定である。AKARI-CASとAKARI-DASとが連携する事により、今後さらに「あかり」サイエンス・アーカイブの完成度が高まっていくと考えている。